

## 平成 30 年医学生リハビリテーションセミナー感想文

### 【JCHO 東京新宿メディカルセンター】

#### ●6 年生

今日は一日、JCHO 東京新宿メディカルセンターのリハビリテーション科の見学をさせていただきました。

午前中は入院患者さんとの IC に同席させていただきました。その日は 4 件入っていて、さまざまな患者さん、ご家族、ケアマネージャーさんも交えての IC を行いました。リハビリ科は退院したらそれで終わりというわけにはいかないの、能力低下とそれに伴う ADL 低下を防ぐためにはどうすればいいのか、真剣な話し合いの場に同席することができました。

午後は回診に同行させていただきました。総合病院において、リハビリ科には毎日さまざまなコンサルトが送られてきます。各フロアに 1~2 人担当患者がおり、その経過を担当医や看護師と確認しているのを拝見し、リハビリ医の重要性を再認識しました。

より実践的なリハビリ医の仕事を拝見させていただいて、とても有意義な見学になりました。ご多忙の中見学させていただいた室生先生、大変ありがとうございました。

### 【広島市立リハビリテーション病院】

#### ●4 年生

今回の見学で感じたこと、学んだことを、大きく 3 つ記載していきたいと思います。

1 点目は「患者さんが病室にほぼいらっしやらない」ということです。患者さんは常に何か訓練をされており、医師が患者さんを探して会いに行かなければならないというのは、患者さん主導の医療であり、いつも見ている病院の姿とは大きく異なっておりました。医師が動き回って患者さんの様子を確認するというのは、現場の指揮官のようで、このような病院内の統率を取るという役目を持つ医師の姿は、真新しく大変興味深かったです。

2 点目は病院内のいたるところに患者さんのための工夫がなされているということです。広々とした廊下、右麻痺、左麻痺の方用のトイレ、転倒防止用の階段に備え付けられた柵、充実した ADL 室、様々な種類の車いすなど、患者さんが生活に復帰するために、日常の様々な場面を想定した配慮がなされていることを実感いたしました。患者さんが「動く」「生活する」ということを中心に考えられている設計であり、リハビリは「生活を診る」ということを改めて実感させられました。また、患者さんが疲れたときにきちんとトイレに行くことができるか、車の運転において注意力や認知機能が十分であるかなど生活の一場面、一場面で大切なことを医療者が考えていくことこそリハビリの醍醐味であり、大きな魅力はないかと思います。

3 点目は「リハビリにおいては多職種連携が非常に重要」ということです。「多職種連携」は言葉だけはいつも耳にしますが、患者さんを第一に考え、わからないことは積極的に相談するという姿勢が「多職種連携」を生むのではないかと思いました。また、もし他職種の先生方から判断を求められたときに、きちんと判断できるように、医師とし

ては患者さんのことを常日頃から包括的に診ていくことが重要だと実感いたしました。

#### ●5年生

この度初めて、リハビリテーション病院を見学させていただきました。最も印象的であったのは、人間が社会で生活を送るためには様々な身体の機能が必要であり、その機能を回復させるための回復期においては、多職種連携が急性期以上に重要であるという点です。歯科やセラピストの方々は、各々専門性が非常に高く、医師には見えない視点をたくさん持っていらっしゃいました。一方で、患者さんの病態や身体機能について全身、全体をアセスメントし、どのように専門性を活かしてチームで患者さんの診療にあたっていくかという計画を立て、多職種同士の架け橋となるリハビリテーション医の役割の重要性も強く感じました。普段は急性期の患者さんを診る大学病院での実習がほとんどだったので、急性期治療を終えた患者さんのその後について知ることができ、大変有意義な見学となりました。そして、リハビリテーションにますます興味を持ちました。今後残りの臨床実習においては、急性期治療のその先にある、患者さんの生活まで見据えた視点も持って臨んでいきたいと思えます。

#### 【健和会病院】

#### ●5年生

#### AM 実習内容

- ・ミニレクチャー
- ・一般病棟入院患者カンファレンス
- ・新規入院患者の診察
- ・嚥下内視鏡

ミニレクチャーでは、リハビリテーションはプラスの要因も含めて評価するというお話が印象に残りました。普段の実習ではプロブレムリストを作成し、それに基づいて考察するということを行っていました。患者さんが今何ができて、それをどのようにして今後の生活にいかせられるのかという視点を忘れていたということに気づかされました。嚥下内視鏡については、嚥下機能の評価だけでなく、ご本人様やご家族、さらには他のスタッフに対する教育の意味もあるということが分かりました。

#### PM 実習内容

- ・訪問診療（嚥下機能の評価）

入院患者さんの嚥下内視鏡とはまた違った観点で見ることができました。普段、どのような場所や姿勢で食事介助がされているかを実際に再現してもらったり、いつもつかっているスプーンの大きさを見たりして、患者さん自身の嚥下機能の評価に加えて、それをサポートする環境の評価もできるということがよく分かりました。また、介護者が誤解していることもあり、それを患者さんが普段暮らす場で話して誤解を解くということもとても意味のあることだと思えました。

全体を通して

リハビリテーションの実際の診療をみるだけでなく、リハビリテーションの考え方、患者さんやご家族との関わり方、診療への向き合い方等、幅広く多くのことを学び考えることができました。特に今正しいとされている（間違っていると疑われていない）ことが本当に正しいとは限らないし、本当に患者さんのためになることは何なのかについて、真摯に向き合っていきたいと思いました。1日という短い時間でしたが、福村先生をはじめ、たくさんの方々のスタッフの方々にお世話になりました。ありがとうございました。

#### 【長野県厚生農業協同組合連合会

鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院】

##### ●5年生

今回のリハビリテーションセンターに参加して、普段の大学生活では得難い体験をさせていただき、基本的なことから丁寧に解説していただいたおかげで、初学者の私にとって実り多いものでした。

TMS をじっくりと見学させていただいたのは初めてで、実際に脚の動きを確かめつつ施術できること、機械音は大きいですが患者さんが途中で眠ってしまうくらい低侵襲であること、施術後の可動域改善・動作の鋭敏化など、まさに百聞は一見に如かずでした。合同入院診察では、多職種間で、情報共有し、ケアレベルを統一していくプロセスを拝見しました。トイレ動作や洗面所の使用など具体的な日常動作を確認し、患者さんのリアルな不自由を把握する、患者さんやご家族の意思を考慮しながら目標を立てる、そこで医師、セラピストさん、MSW さん、はどのような役割を果たすか、非常に勉強になりました。先生方が、優しく声をかけながら、患者さんの日常を想像して、ちょっとしたことでも違和感を感じられる患者さんの思いを丁寧にくみとっていかれる御様子、その一方で、いかに速く本質に迫り、次々といらっしゃる患者さんに対応していくのか、熟練の技を拝見しました。突然の学生見学にも快く対応して下さった患者さんに感謝しております。

天候にかかわらず自主的にトレーニングできる大きなスロープ、ケアレベルに合わせた温泉施設、木目の美しい病棟、自然豊かな病院周辺の歩行訓練コース、など工夫の凝らされた環境を拝見しました。院内のあちこちで、セラピストさんとマンツーマンで様々な日常動作を練習されている患者さんがいらっしゃり、病名としては同じ脳梗塞でも、重症度や各々の「癖」によって装具の形状、トレーニングの内容が異なってくることをよくわかりました。時代とともに移り変わる患者さん・ご家族の姿や、セラピストの先生方が日々感じていらっしゃることをうかがう機会をいただきました。

リハビリテーションは、臨床の現場からの期待・需要に応えられる分野であると同時に、学問的にも興味が尽きず、面白いと思います。

#### 【長野厚生連佐久総合病院】

##### ●5年生

今回、急性期から回復期、生活期におけるリハビリテーションについて見学と体験をさせていただきました。

佐久医療センターでは急性期における介入について、理学療法士の方がICU入室中の患者さんのベッドサイドで車椅子移乗と座位の保持の訓練を行っていたのが印象に残りました。訓練室で行う訓練のみがリハビリテーションではなく、ベッドサイドからの早期介入により身体機能回復を行うことが重要であることがわかりました。

佐久総合病院ではカンファレンスや患者さんとご家族へのインフォームド・コンセントに同席し、退院後の生活の目標に合った適切なリハビリテーションが行われているかを多職種で議論する様子を見学させていただきました。また、訪問リハビリテーションで理学療法士の方と利用者さんの自宅を実際に訪問し、自宅の環境に合わせた訓練の様子を見せていただいたのが今回最も印象に残りました。リハビリテーションは病院で完結するものではなく、自宅に戻った後も続き、継続して介入していく必要があることがわかりました。

装具診や自動車運転評価、車椅子やベッド移乗のための装置などを含む生活をサポートする器具としてのテクノエイドに関する病院全体の取り組みについても見学させていただき、リハビリテーションの領域が生活全体に及ぶことがわかりました。

今回の実習を通して、リハビリテーションは障害を有する本人の目標を実現するために、多職種で、あらゆる手段を通して、心身機能・構造障害、活動制限、および参加制約のそれぞれに対してアプローチして介入していくことであるということがわかりました。その中でリハビリテーション科医の役割は、他の職種が安心して介入していくために身体機能評価と医学的管理や処方・処置を行い、またそれぞれの職種による適切な介入がなされているかについて評価を行うことであると感じました。

このような機会を与えていただき、ありがとうございました。

#### 【藤田医科大学病院・藤田医科大学七栗記念病院】

1) 今回は参加させて頂き、また有意義な時間を過ごさせていただき、ありがとうございました。参加させていただき1番印象的だったのは、患者様の歩行を見ながら、関節の動きを見て今後起こりうる問題を予想したり装具を調節したりすることでした。なかなか一度で理解するのは難しかったのですが、そういう視点で評価していたのかと大変驚きました。なかなかリハビリだけでも回復に限界があり、そういった面で何らかの何らかの研究の形で貢献できたらなと思いました。1日という短い参加ではありましたが大変お世話になり本当にありがとうございました。

2) 研修の中でも、他科を回っていると見る機会のないような機材やお話なども知ることができて良い経験ができました。研修中に回る事のない科の分野で少しでもこのような機会に、どのような事をしている所なのか、どのような点に注目して見ているのか知ることができて勉強になりました。

3) 何度か参加させていただいているということで別メニューで対応していただき、ありがとうございます。普段の業務の様子や実際みている患者のお話など聞かせていただ

きリハ医がどういうことをしているのかイメージがより深まったように思います。いつもお世話になりありがとうございます。

4) 今回夏期セミナーに参加させて頂き回復期病棟を見せて頂く機会に恵まれたことを感謝しています。普段急性期病院で研修しているため回復期に転院するまでしか見たことがなく、本人・家族と共に障害を受容するプロセスに合わせてリハビリをされている回復期病棟のチームの方々の働いているお姿を拝見したことでよりリハ医の仕事をイメージできました。また夜の懇親会では園田先生にたくさんのお話をして頂き、キャリアパスのお話や藤田の先生方の展望もお聞かせ頂きました。とても近い距離で私のような駆け出し研修医のお話も熱心に聞いて頂き大変ありがたく思います。また、リハビリに興味のある同年代の方々にもお会いできて良かったです。

5) 私はリハビリテーション科には興味があったのですが、今まで知る機会がなく、今回知人の紹介で参加させて頂きました。急性期病院で研修している私達は、回復期病院もしくは退院後の患者さんの生活を想像する事はあっても実際に見ることはありませんでした。今回のセミナーではリハ科がどのようなことを行っているのかどのような考え方をしているのかを知ることができ、とても有意義な時間を過ごさせて頂きました。これからリハビリを必要とする方は増加する一方だと思いますし、リハ科の先生自体も少ないと思うので、これから非常に重要視される診療科だと考えています。私の地元ではリハ科の医師が少なく、リハビリが軽視さえれていることもあり、ほとんどの医師は退院後の生活まで目を向けていないように思います。これからリハ科の医師が増えること、他の診療科の医師へのリハの必要性ややり方などをご教授頂けたらと願っています。今回のセミナーはとても有意義なものでした。ありがとうございました。

6) リハビリに興味はあれど、実際にどのようなことをしているのか知らない状態でしたが、今回の機会に一部ではありますが先生方の診療業務内容について教えて頂きビジョンを持つことができ、大変参考になりました。

7) 全国各地からいろいろな人が来ている話を聞いて良かったです。リハビリの一部だとは思いますが全体を見学、体験することができ、勉強、参考になりました。講義も普段聞けないことが多かったのでためになりました。後輩に勧めたいと思いました。

8) 3日間ご指導いただきまして、ありがとうございました。リハビリ科の医師の方々の仕事内容を知ることができた他、セラピストの方々との関係や、チームとしてのコミュニケーションが大切だということにも気付かせて頂きました。この経験を活かして、今後精進して参りたいと思います。

9) 装具を体験できたことがよかった。固定する関節や動きが異なる様々な装具を見ることができた。欲を言えば、どのような疾患でどのようなポイントを見て、どのような装具を適応し、フォローアップとしてどのようなポイントに気をつけて経過をみれば良いのかを導入の部分でも教えて頂ければよかった。同様に神経電動検査においても検査

結果のどのような部分を見てどう判断しどのような鑑別を挙げるかを簡単にでも教えて頂けたらより普段の臨床との関連がイメージできてよかった。

10) 自分は将来リハ医になりたいと考えているので、実際の業務・手技を目の前で見れたのはとても良かったです。また、体験型のものが多かったので、飽きることなく過ごせました。今回は1日しか来ることができなかったので、また次回があれば参加したく思います。

11) 今日は2回目の七栗記念病院実習をさせていただきました。前回は装具体験やADL器具を使う経験をさせていただきましたが、今回は患者様へのインタビュー、診察、訓練見学をさせていただき、前回の復習と共に、医療者が患者様と向き合う姿、患者様やセラピストが汗水流して一步一步勤めていかれる姿がより一層意義深いものとして感じられました。このように日々医療者・患者様が力をあわせて頑張る上で最終的な調整後の司令塔となる医師の役割と責任をいっそう大きく感じる一日となりました。

12) この度はお忙しい中リハビリセミナーを開催して下さいありがとうございました。昨年度リハセミナーに参加した友人からの紹介で受講させていただきましたが、とても充実した2日間でした。学生時代からなんとなく「リハビリ楽しそうだな」という気持ちは持っていましたが本腰を据えて勉強したことはありませんでした。脳出血の患者様の理学療法を見学させていただきながら、リハビリの医師からはリハビリに学ぶという贅沢な時間を体験させていただきました。リハビリに興味はありますが、知識がゼロの私にも先生方が優しく丁寧に指導して下さい本当にありがたかったです。先生方のお話や回復期リハ病院の明るい雰囲気など見て改めて「リハビリはいいな、楽しそう」と実感しております。研修医1年目で医師としてはまだまだですが、リハ医になりたいというモチベーションが上がりました。本当にありがとうございました。